

# 旧酒田商業高校跡地の活用に関するアンケート調査報告書

## 1. 旧酒田商業高校跡地の活用に関するアンケート調査の実施概要

### (1) アンケート調査の目的

旧酒田商業高校跡地は、本市最大の観光施設である「山居倉庫」に近接し、市街地に入る玄関口ともいべき位置にあることから、当該跡地の活用は本市の今後の活性化に大きな影響を与える可能性があるため、全市的な観点から活用方策の検討を行う必要がある。

そこで、活用の方向性や導入機能等に関する市民意見を把握し、検討の基礎資料とすることを目的に「市民アンケート調査」を実施した。

### (2) アンケート調査の実施状況

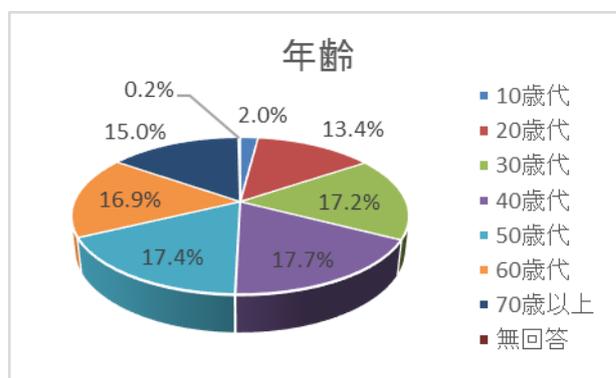
- ①実施期間 平成 28 年 10 月 1 日（土）～11 月 11 日（金）
- ②実施手法
  - ・市内在住の 18 歳以上無作為抽出 2,000 人にアンケート用紙を郵送
  - ・市役所及び各総合支所にアンケート用紙を備え付け
  - ・市のホームページにアンケート用紙を掲載
- ③回収サンプル数 885 件（男性:379、女性:494、無回答:12）  
(郵送:711、BOX:167、メール:4、FAX:3)

## 2. 結果と分析

### (1) 性別・年齢【質問 1, 質問 2】

性別では、男性 42.8%に対し、女性が 55.8%ととなり、女性からの回答の方が多かった。

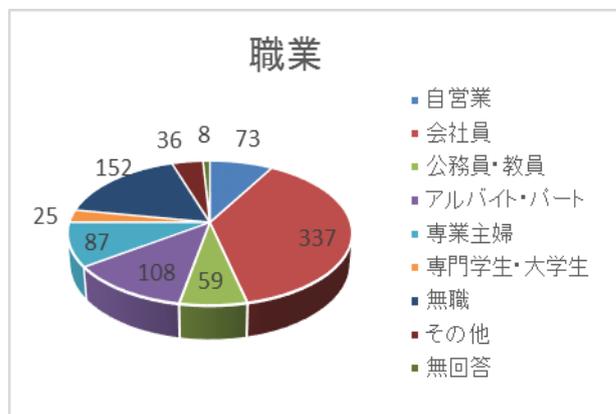
年齢では、18～29 歳が 15.4%、70 歳以上で 15%であったものの、20～60 歳代では 17%台の回答率で、各年代からほぼ均等に回答を得ることが出来た。



### (2) 職業【質問 3】

職業別では、無作為抽出の選別項目としていなかったことからばらつきはあるが、各業種の方から回答をいただいた。

会社員が 38.1%と最も多く、次いで無職 17.2%、アルバイト・パート 12.2%、専業主婦 9.8%、自営業 8.2%となっている。無職については高齢者層が多くを占めている。



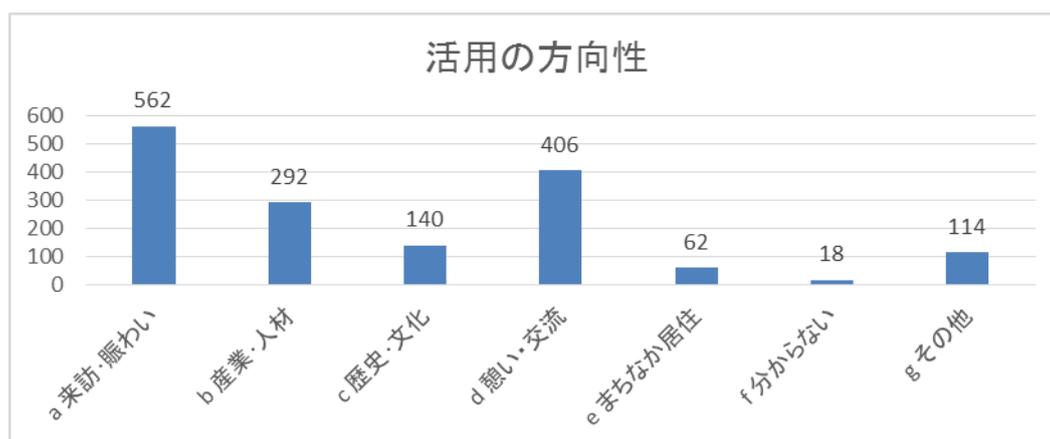
### (3) 活用の方向性 (2項目選択)【質問5】

活用の方向性では、「a市の内外から多くの人を訪れ、賑わいを生み出すような場所」が最も多く、次いで、「dまちなかで人々が憩い、交流できる場所」、「b酒田の産業を育み、地元で働く人を増やすような場所」を選んだ人が多かった。

「a来訪・賑わい」や「d憩い・交流」においては、男女や年代でそれほど大きな差異(-2.2%~+2.3%の範囲内)は見られなかったが、「b産業・人材」においては、女性(+5.8%)と20代(+6.1%)の支持が高く、「c歴史・文化」では男性(+7.2%)と70代以上(+9.3%)の支持が高い状況であった。賑わいや憩い、交流の面では男女世代を問わず欲しい機能となっているが、雇用や歴史・文化の面では、男女や年代で求める活用の方向が異なっている。

自由記載の欄においても、『賑わい創出』、『集い(集まれる場所)・交流』というワードが多くあり、観光客だけではなく、市民も活用でき、子どもから高齢者まで多くの世代が集い交流できる場所としての活用を望む声が多い状況であった。また、雇用の場の創出や人材育成に関する記載も多く見られた。

(※+-%の表示は総回答数の比率：男性42.8%、女性：55.9%対しての比率で表示)

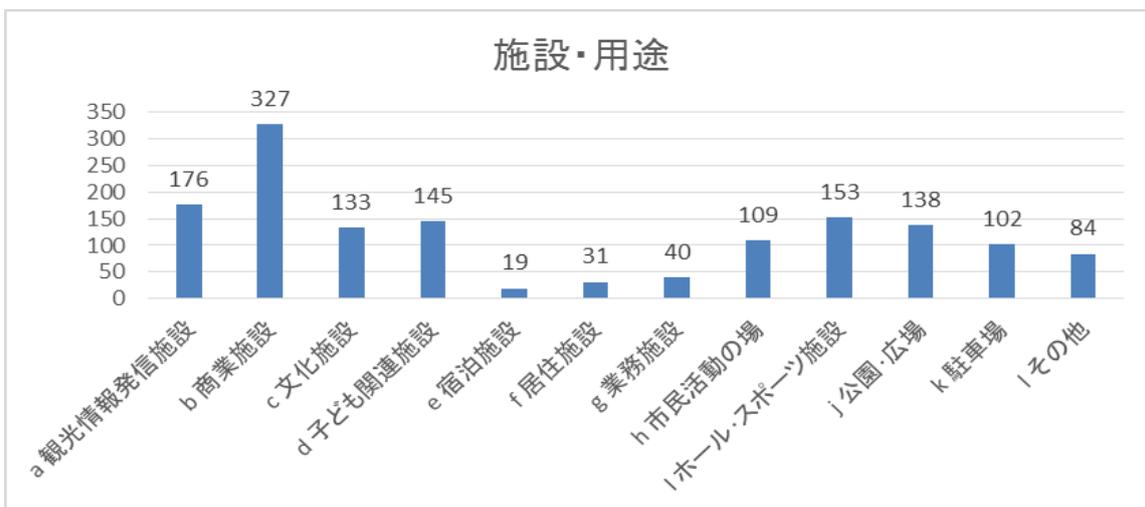


### (4) どのような施設・用途 (2項目選択)【質問6】

どのような施設や用途を期待するかでは、「b産直施設や飲食・物販店舗などの商業施設」を選んだ人が圧倒的に多く、次いで「a観光情報発信施設」、「iホール、体育館など文化・スポーツ施設」、「d保育所や子どもセンターなどの子ども関連施設」、「j公園や広場」を選んだ人が多かった。また、質問5の活用の方向性や自由記載と連動する、賑わい創出や集い(集まれる場所)・交流に関連する施設・用途への要望も多い結果となった。

男女の比較では、「b商業施設」、「iホール・スポーツ施設」及び「d子ども関連施設」では女性(+4.4%~+6.2%)の支持が高く、「j公園・広場」や「k駐車場」においては、男性(+1.3%~+2.1%)の支持が高い状況であった。年代においては、「b商業施設」、「iホール・スポーツ施設」及び「d子ども関連施設」で20代~30代(+4.9%~+12.5%)の若い世代の支持が高く、逆に50代以上の世代には低い状況であり、「j公園・広場」や「c文化施設」、「h市民の活動の場」においては、60代~70歳以上(+7.7%~+11.6%)の世代に支持されている。

その他では、「お年寄りが集まれる施設」や「若者が集まれる施設」など、年代で活用できる施設への意見も多く見られた。



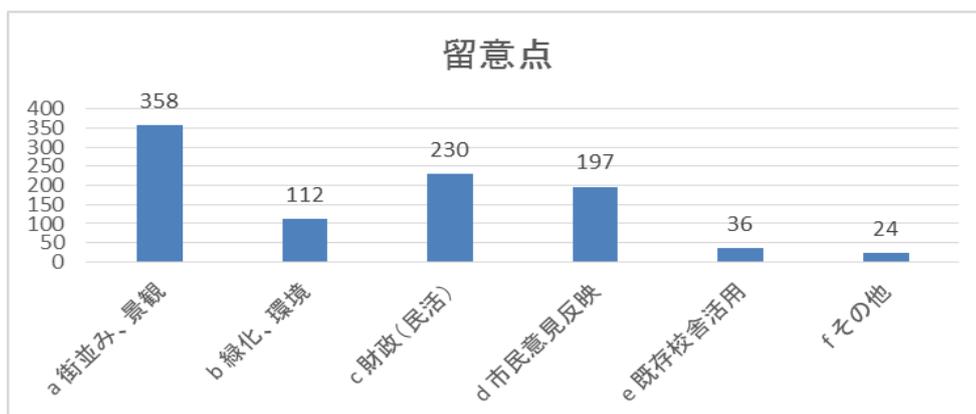
#### (5) 活用の際の留意点【質問7】

活用の際に特にどのようなことに留意すべきかでは、「a 周辺の街並みや景観への配慮」が最も多く、次いで、「c 民間の活用等による市の財政負担の軽減」、「d 市民意見の反映、情報公開」が多かった。一方で「e 既存校舎の活用」に対する意向が少ない状況であった。

「民間の活用等による市の財政負担の軽減」を比較的多くの人を選んでいることから、公共施設以外にも活用の範囲が広がり、民間の活力やノウハウの活用による、より集客力の高い、魅力ある施設の整備ができるものと考えられる。

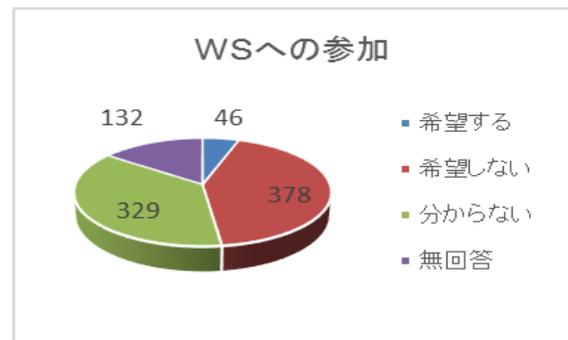
男女別では、それほど多くの差異は見られなかったが、「d 市民意見の反映」と「b 緑化・環境」において、女性(+4.0%~+4.1%)の支持が高かった。年代別では、「a 街並み・景観」40代までの若い世代(-0.4%~-3.7%)では支持が低く、50代以上の世代(+1.3%~+3.4%)で高い支持があった。また、「d 市民意見の反映」でも、50代までの世代(+0.4%~+3.3%)では支持が高く、60代以上の世代(-4.3%~-4.9%)では支持が低いという傾向が見られた。

自由記載では、「他に類を見ない独創的な発想を」や「災害時への対応への配慮」などの意見も出されている。

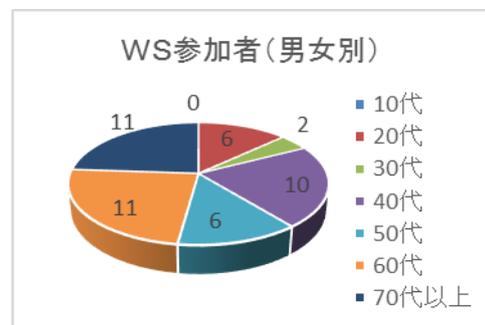


## (6) ワークショップへの参加の意向【質問8】

活用に向けた検討において市民ワークショップを開催した場合に参加を希望するかについては、46人(5.2%)が「希望する」を選択、また、329人(37.2%)が「希望しない」ではなく「分からない」を選択しており、旧商業高校跡地の活用についての市民の関心度の高さがうかがわれた。



「希望する」を選択した人の構成について、男女別では男性26名、女性20名。年代別では、20代が6名、30代が2名、40代が10名、50代が6名、60代が10名、70代以上が10名となっており、若干のばらつきはあるものの、幅広い世代からの参加希望を得ている。



## (7) 自由意見

### 〈人が集える施設〉

特に多かったのは、「休日に家族でも一人でも過ごせる」、「高齢者と子どもが集い交流できる」、「観光客も市民も行きたくなる」など、『集い・憩い・交流』をテーマとする施設に対する意見であり、併せて、「子どもたちがのびのび遊べ、大人がゆっくり過ごせる」といった『子育て』の機能を求める意見が多かった。

また、スポーツを楽しんでいる人や小中校生の父母等からは、練習や合宿が出来るスポーツ施設整備や、ちょっとした運動が出来る公園や広場の整備に対する意見も多く、これらの整備により、周辺市町村からの利用も期待できるとの提案がされている。

### 〈駐車場〉

駐車場に関しては、「山居倉庫の駐車場が狭い」、「駐車場がないので市内のイベントに来られない」、「駐車場がなければどんな施設整備をしても人は来ない」など、集客施設や市内開催イベント、まちなかへの回遊において、整備が必須である旨の意見が多かった。

山居倉庫からの距離や橋を渡らなければならないなど懸念材料があったが、アンケートではそれに対する意見はなく、山居倉庫やまちなか回遊における駐車場として、旧酒田商業高校跡地へ整備する意見が多く出されている。

## 〈観光関係〉

物販や情報発信等を含めた観光拠点施設、周辺の山居倉庫や海鮮市場等と連携した整備について望む意見が多くあった。また、本市の歴史や文化を紹介する施設や、資料館の再整備に関する意見、吉野弘や岸洋子など本市ゆかりの著名人の記念館の整備への意見もあった。

そのほかに、山居倉庫や新井田川、鳥海山など周囲に望む景色や景観を大切にしながら活用すべきとの意見が多かった。

## 〈市民利用〉

酒田東高校が近くにあることから、高校生の学習の場や部活での活用、また、学校跡地であることから英会話や料理教室などの講習会や音楽関係の練習室など、人材育成に関する施設利用に関する意見が多く出された。また、高校生から、大学や研究施設の誘致に関する意見の中で「そこに学びたい、又は学ぶ価値のある学問の研究施設があれば、酒田に移住してくる人も増えるだろう。観光地とはならないかもしれないが、酒田を活気のある素晴らしい市にしてくれるはずだ。」との、教育・研究に関する施設整備への意見もあった。

他には、少子高齢化社会の進展もあり、老人ホームやデイサービスなどの高齢者向け施設や、保育園、学童、フリースクールなど子育てに関連する施設整備に対する意見も多かった。

## 〈産業振興〉

「既存校舎をIT企業やコールセンターなどに無償貸出し企業誘致つなげる」といった意見や、「レンタルラボ、シェアオフィス、クラフトセンター、コワーキングなどのスペースとして既存校舎を活用した、企業誘致、起業支援」など、若者の雇用拡大や企業促進に活用すべきとの意見があった。

## 〈酒田市の活性化、対応のあり方〉

酒田市の発展につながるような有効活用に期待「酒田の活気を盛り上げて」など市の活性化に期待する意見や、「ここに住んでいることが自慢できるようなまちづくり」「市民にとって有意義な納得のいくもの」「若い人達が戻ってきたいと思えるような」など将来性や独自性のある施設整備に期待する意見が寄せられている。

また、「未来を見据えて誤算の無いような計画」、「長く利用できる」、「迅速に動くべき」など、整備に向けた迅速性や継続性を憂慮する意見も出されている。

加えて、「何もしない」、「しても最低限」など費用を掛けない意見や、「箱物の公共施設はもういい」、「民間活用による市の財政負担軽減」など市の財政削減に対する意見も出されている。

## 〈その他〉

酒田商業高校の卒業生等からは「商業高校があった歴史を残すべき」、「全てなくなるのは寂しい、一部でも残せないか」など、既存校舎や施設を残す意見もある。

【参考】

◆回答者の居住地（小学校区）【質問4】

現在、本市には 26 小学校区があるが、今回の回答では、飛島を除く 25 の小学校区の居住者から回答を得ており、市内全域の市民より回答を得ている状況と言える。

最も多かったのは亀ヶ崎 90 件、松原 89 件で、次いで、若浜 59 件、泉 58 件、宮野浦 57 件となっており、少ない所では、地見興屋 3 件、田沢 5 件、松山 7 件、南遊佐 8 件であるが、これは区域の人口や世帯数を考慮すれば、相応の数値と判断できる。

